

## ご加入者の声

2009年7月に青森市の「ホテル青森」にて開催されました、「平成21年度 ぎょさい推進全国会議」における体験発表、「漁船漁業とぎょさい」にて、青森県野牛漁協の渡邊参事よりご講演いただきました。以下にその抜粋を掲載いたします。

昭和28年の漁協設立当初より、役員が漁業共済制度の必要性を認識し主幹漁業の「こんぶ漁業」の加入を果たし、以後これを契機に、小型漁船漁業、ほたて貝桁網、小型定置と全ての漁種の加入を行ってきた。

設立当時からあったこんぶは資源の低迷期となり水揚げが減少していき、その後、トラックなどの輸送方法なども確立され漁船漁業が中心となった。しかしながら、水揚げも度々不漁に見舞われ、漁業経営を弱体化させ何度とも追い込まれる状況になった。

特に平成10年にはスルメイカの大不漁に見舞われた際には、借入金や未払い金の返済に窮するなか、「ぎょさい」の共済金を担保に融資をするなどの対応により不漁を乗り越えた経験から、ぎょさいの有用性を改めて認識した。

他にも平成3年には台風が直撃した際、がけ崩れなどにより泥水が流れ込み地まきほたて貝が全滅した際には、組合員の努力により3年間かかって欠損金を解消することができたが、この際にも共済金が役立った。

不漁の際には、補償の低下と掛金の負担感のアップにより契約の継続確保に苦労することもあるが、その際には組合員にぎょさいの必要性を丁寧に説明することで、加入意識も高いものとなって現在に至っている。



(写真は野牛漁協 渡邊参事)